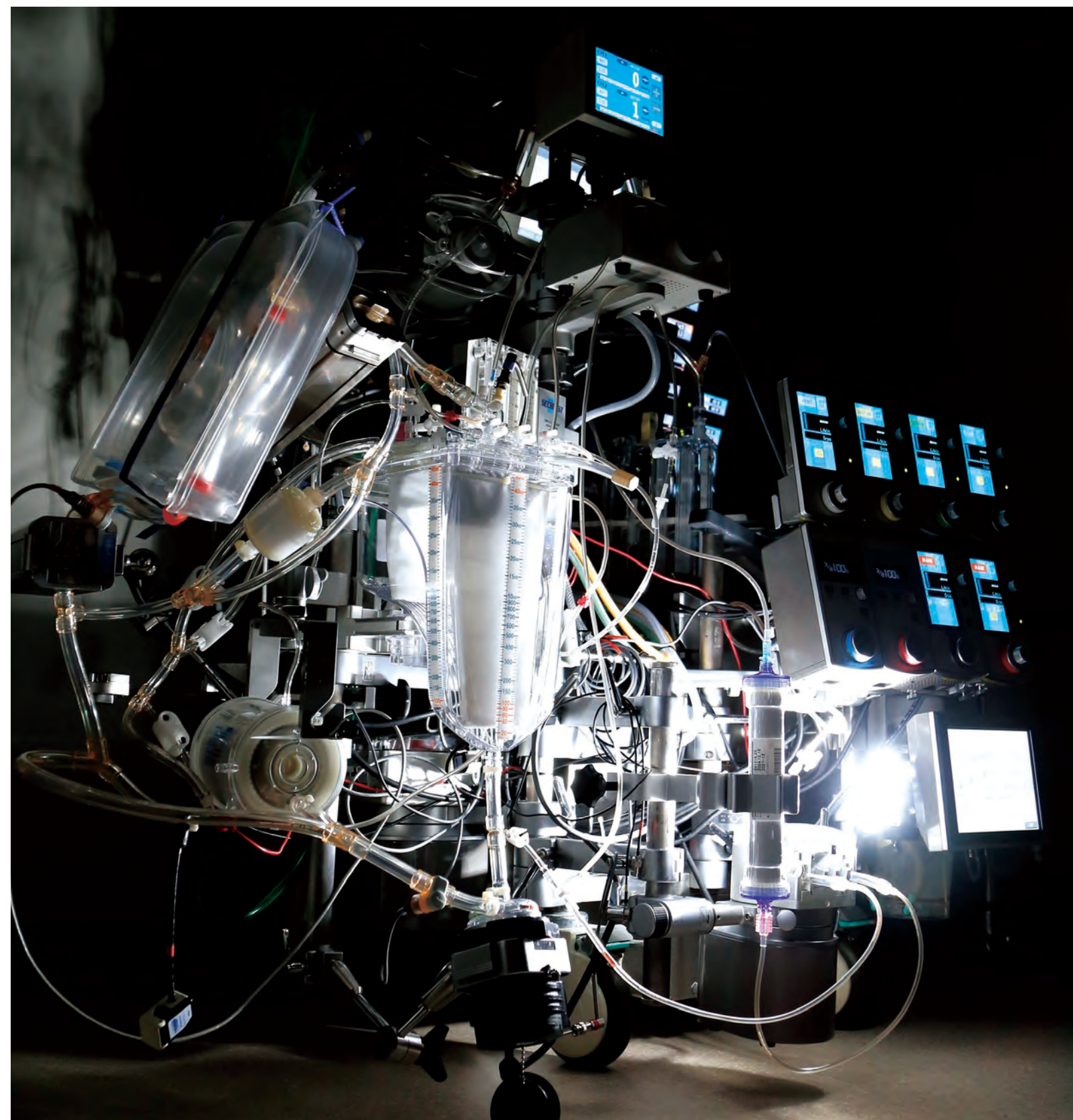


HANDS



いつもの暮らしに、いつものあなた
小倉記念病院



命をつなぐ 心臓外科医

心臓血管外科では、地域の重症心疾患患者に迅速に対応できるよう、緊急手術が可能な体制を整えています。地域で心臓血管外科を標榜する病院は限られており、心臓血管外科を志す若手医師の減少は、今後の地域医療を支える上で深刻な問題です。そのため、施設の集約化や業務のタスクシフトが急務となっています。心臓血管外科医はもちろん、循環器内科や放射線科、麻酔科、放射線技師、人工心肺を操作する臨床工学技士、術中・術後の管理を行う看護師など、多職種が連携することで、初めて高度な手術体制が成立します。北九州で唯一、心臓血管外科医が8名在籍する当院は、各部署と緊密に連携し、重症例にも迅速に対応できる体制と、豊富な経験に裏打ちされた高度な手術実績を誇ります。

8



今田 涼



副部長
袴田 圭祐



部長
津丸 真一



主任部長
大野 暢久



部長
松尾 武彦



副部長
黒田 悠規



和田 裕樹



北方 悠太

精鋭8名の心臓血 管外科医が集結

年間手術件数 **618** 件（内、心臓大血管手術 **477** 件）
(2024年度)

心臓血管外科 × 循環器内科 × 麻酔科

—今回は診療科の垣根を越えて、心臓血管外科（以下心外）の北方先生と、心臓血管外科と関わりが深い循環器内科の末永先生、麻酔科の佐々木先生と、3人の同世代の先生方にお集まりいただきました。先生方は普段どのような形で関わることが多いですか？

佐々木 私は心臓麻酔を行なっているので、正直心外の先生とは近すぎて同じチームという感覚で（笑）この病院に来て驚いたのは、心外の先生方がすごく腰が低いこと。以前いた病院ではとある外科の先生が怖すぎて麻酔科医の手元が狂うなんて逸話があったり…（笑）

北方 今は麻酔科の先生に強く当たる先生は少ないと思いますよ！昔は違ったかもしれませんが（笑）

佐々木 今の心外との良好な関係性は、やっぱり主任部長の大野先生が存在が大きいと思います。大野先生は「安

全で確実な手術」を第一に考えていらっしゃるのので、私たちも安心して手術に臨めます。何か問題があっても、対話を通じて改善策を考えてくれる。この「対話できる」という文化が、今の心外のカラーを作っているんだと思います。

末永 僕たち循環器内科とは毎週月曜と水曜のハートチームカンファレンスで主にお世話になっていますね。この病院に来て、外科の先生たちがどういう視点で症例を見ているのかを知る機会が増えました。特に、緊急で困っている時に「これ、手術しますよ」と言ってくれる一言は、本当にスーパーマンに見えます。カンファレンスでは津丸先生も「やらない理由を探すより、やれるならやろう」というスタンスで絶対に緊急手術を断らない。その姿勢がチームを引っ張ってくれていますよね。

北方 津丸先生は下に優しくて上に厳しいんですよ（笑）僕ら若手からすると、一緒に寄り添って考えてくれる、すごく

頼りになる存在です。手術もものすごく早いですしね。—当院にとっては特に心臓の内科、外科は地域の最後の砦として必要不可欠な科ですが、特に外科系を目指す先生が増えないという課題があります。やはり「敷居が高い」というイメージが強いのでしょうか？

末永 僕も今ゼロから外科を目指せと言われてたら無理と思う。緊急手術で夜通し働いて、それが「ご褒美だぞ」と言われて喜べる人じゃないとやっていけないでしょ（笑）？

北方 そんなことないですよ（笑）でも手術のプレッシャーをどう感じるかは人それぞれかもしれませんね。僕は手術のプレッシャーはあまり感じないタイプです。

佐々木 やっぱり通常の感覚ではなれないと思います（笑）私は失敗が続いた時期に「もう向いてない」と思い詰めて仕事のことはばかり考えてしまっていたので、意識的に仕事から離れようと。最近ピラティスを始めたり、あえてオフの時間を作っています。先生たちはオフどう過ごされています？

末永 循環器は人数が多いから日直・当直は月2回程度です。それ以外のオフの日は基本的に病院から呼ばれることは絶対にない。これは本当にありがたいです。だからしっかりオフは取っています。子どもが生まれてからはなるべく家で子どもと過ごす時間を大切にしていますね。

北方 心外は2チーム制なので毎日交代で休みが取れるんです。チームで分けられると垣根みたいなのが出たりするんですが、松尾先生が来られてからは垣根が下がってチームワークが深まりました。あと心外は見学者や外部講師が来たりするので、結構先生たちとは飲みに行ったりしますよ。さっきみたいな心外に対するイメージを払拭したくて（笑）最近心臓血管外科発信のInstagramを始めたんです。

佐々木 そうなんですね、フォローさせていただきますね！

北方 心臓血管外科も色々な科の先生方や看護師、メディカルの方たちのお陰で働きやすい環境になっています。相談もしやすいし若手の先生にとっては良い環境だと思います。この魅力をもっと発信していきたいですね。

麻酔科・集中治療部
佐々木 莉奈

心臓血管外科
北方 悠太

循環器内科
末永 智大



心臓血管外科

密なカンファレンスでの
情報共有

循環器内科

心臓血管外科との連携

心臓血管外科

ステントグラフト内挿術
コイル塞栓術

放射線科

外科・内科両輪で支える安全・確実な治療

心臓血管外科と循環器内科は両輪の関係であり、お互いの強みと役割を理解した上で、患者さん一人ひとりに最適な治療を選択するためには、密な情報交換と信頼関係の構築が不可欠です。当院では、週1回のエコーカンファレンスや合同カンファレンス、月1回の画像研究カンファレンスを開き、症例の共有や治療方針の協議を行っています。僧帽弁閉鎖不全症では従来の外科手術に加え、経カテーテルによる新しい治療法も導入され、外科手術が難しい患者さんにも新たな選択肢が広がりました。エコーカンファレンスでは、外科・内科双方の視点で症例を振り返り、より精度の高い弁

形成を目指しています。また、合同カンファレンスでは経カテーテル的大動脈弁置換術を中心に、多くの弁膜症症例の治療方針を協議しています。さらに、放射線科技師と連携してCT解析や新しい診断法の研究も進め、国内外へ情報発信しています。病棟や救急外来での対応でも両科が協働することで、心臓血管外科の診療は安全で確実なものとなっています。

血管内治療スペシャリストとの連携が生む低侵襲治療

心臓血管外科と画像診断・血管内治療は、切っても切れない密接な関係にあります。画像診断に関しては、日中・夜間を問わず放射線科の医師に対応いただき、正確な診断や助言を常に受けられる体制を整えています。心臓血管外科の血管内治療では、胸部・腹部のステントグラフト内挿術が中心ですが、近年では動脈瘤や血管奇形の治療において、外科手術とカテーテルによる血管塞栓術を組み合わせることで、患者さんへの負担を抑えつつ高い治療効果が期待できる症例が増えています。当院では、このような低侵襲治療を安全かつ確実に行うため、心臓血管外科と放射線科が緊密



に連携して治療を行っています。診断・治療の双方で高度な専門性を発揮し、迅速な対応ができる協力体制は、当院ならではの強みです。さらに、緊急対応が必要な症例では、放射線科による血管内治療と心臓血管外科による外科治療・血管内治療の選択肢を備え、柔軟かつ安全な治療体制を整えています。

放射線科による血管内治療と心臓血管外科による外科治療・血管内治療の選択肢を備え、柔軟かつ安全な治療体制を整えています。

集中治療室における看護師の役割



staff

2

救急看護認定看護師

(ICRN: Intensive Care Registered Nurse)

救急看護認定看護師／特定行為看護師として、ERで心臓血管外科疾患を含む重症循環器救急に対応しています。一刻を争う循環器疾患に対しては、患者さんの到着直後から全身状態の評価や循環動態のモニタリング、気道・呼吸管理、薬剤の緊急投与など、初期対応を確実に実施しています。さらに、心臓血管外科医をはじめとする多職種と密に連携し、最短で治療が開始できる体制を整えることで、救命率の向上と早期回復を目指しています。突発的な病状や治療方針に直面する患者さん・ご家族に対しては、状況をわかりやすく説明しながら寄り添うことで安心につながります。わずかなバイタル変化や症状の兆候を捉え、重症化を未然に防ぐことを常に意識し、確かな判断力と実践力で、安全かつ質の高い救急医療を支えています。



staff

3

急性重症患者看護専門看護師

(CNS: Certified Nurse Specialist)

急性重症患者看護専門看護師は、クリティカル領域において高度実践を展開しつつ、多職種の橋渡しをするなどチーム医療の中核を担っています。心臓血管外科医とのコラボレーションでは、術後の管理や急変時の対応など、専門的視点から医師と緊密にコミュニケーションを図っています。緊急手術の術前には不安を抱える患者さんやご家族の意思決定支援をともにし、個別性のある医療を心がけています。医師との密な連携により、安全で質の高い医療を提供し、患者さんの早期回復や合併症予防に専門看護師として寄与しています。今後はCALS (Cardiac Surgery Advanced Life Support)導入に向けてシステム構築を行っていく予定です。

クリティカルケア認定看護師

(CN: Certificated Nurse)

staff

25

クリティカルケア認定看護師として、心臓血管外科医と連携し、主に集中治療室で重症患者の全身管理に携わっています。認定看護師として専門的な臨床判断を行い、高度な知識と技術をもとに看護の質向上とチームの支援に努めています。人工呼吸器からの早期離脱、薬物調整、体液管理などの特定行為を実践しつつ、専門的な臨床判断をもとに看護の質向上にも取り組んでいます。認定看護師として高度な知識と技術を活かしてチームを支え、看護師の教育や人材育成にも関わっています。当院では医師と看護師が互いを尊重し補完し合うことで、安全で質の高い医療を実現しています。患者さんご家族に安心を届け、地域に信頼される集中治療を今後も実践していきます。

